

リート マンスリー

2019. 6. 6発行



三井住友DSアセットマネジメント

作成：三井住友DSアセットマネジメント株式会社
URL: <https://www.smd-am.co.jp>



1. 月間のリート市場の動き

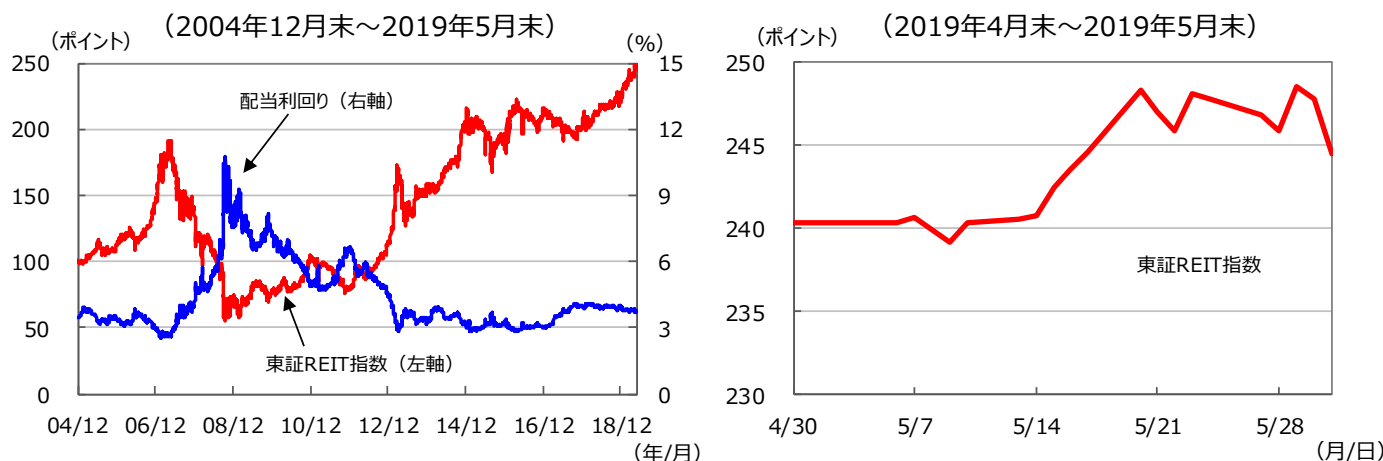
5月の東証REIT指数（配当込み）の騰落率は、+1.75%となりました。

リート市場は、米中貿易摩擦問題が再燃し株式市場が調整する中、長期金利が低位で推移したことやリートの好調な業績動向を背景に底堅い動きとなりました。月内では4件の公募増資が発表され需給軟化も懸念されましたが、リートがFTSEのグローバル株式指数に採用される可能性が浮上したことで、資金流入期待から指数が押し上げられました。用途別東証REIT指数では、オフィスセクターがアウトパフォームしました。FTSEグローバル株式指数への採用の可能性が浮上したことで、海外投資家が大型オフィスリートを選好したものと見られます。

不動産市況をみると、4月の都心5区のオフィス空室率は1.70%と、前月から低下し、賃料の伸びも継続しています。

日銀による月間のリートの買い入れは、3回（合計36億円）行われました。

2. 東証REIT指数（配当込み）の推移



		基準日	1週間前	1か月前	3か月前	6か月前	1年前	3年前
		2019/5/31	2019/5/24	2019/4/30	2019/2/28	2018/11/30	2018/5/31	2016/5/31
東証リート指数	指数値	3,889.57	3,941.82	3,822.76	3,728.00	3,610.49	3,379.45	3,422.69
	騰落率	-	▲1.3%	1.7%	4.3%	7.7%	15.1%	13.6%

(注1) 左右のグラフの東証REIT指数（配当込み）は2004年12月末を100として指数化。休日の場合は前営業日のデータを使用。

(注2) 表中の騰落率は基準日をベースに該当期間の指数の騰落を表示。

(出所) Datastreamのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

3. 指数構成比率の上位銘柄

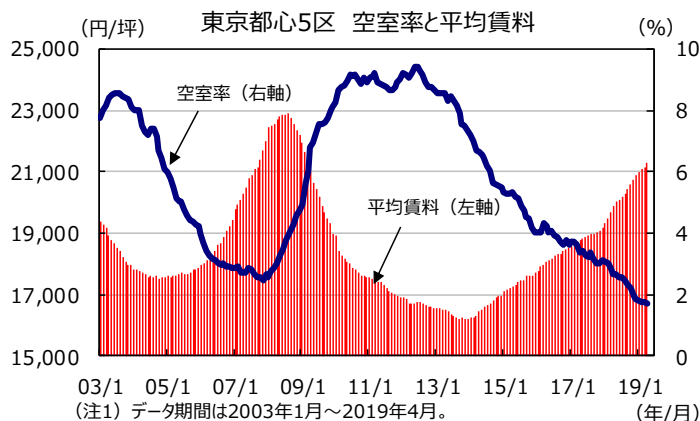
東証REIT指数の上位構成銘柄（2019年5月末現在）

【指数構成銘柄数 63】

順位	銘柄名	構成比率
1	日本ビルファンド投資法人	7.5%
2	ジャパンリアルエステイト投資法人	6.8%
3	野村不動産マスターファンド投資法人	5.5%
4	日本リテールファンド投資法人	4.3%
5	ユナイテッド・アーバン投資法人	4.1%
6	オリックス不動産投資法人	4.1%
7	大和ハウスリート投資法人	3.6%
8	日本プロシスリート投資法人	3.3%
9	アドバンス・レジデンス投資法人	3.2%
10	GLP投資法人	3.1%
	その他	54.3%
	合計	100.0%

(出所) Datastreamのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

4. 東京の空室率および賃料の推移



(注1) データ期間は2003年1月～2019年4月。

(注2) 東京都心5区は千代田区、中央区、港区、新宿区、渋谷区。

(出所) Datastreamのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

グローバルリート マンスリー

2019. 6. 6発行



三井住友DSアセットマネジメント

作成：三井住友DSアセットマネジメント株式会社
URL: <https://www.smd-am.co.jp>



1. 月間のグローバルリート市場の動き

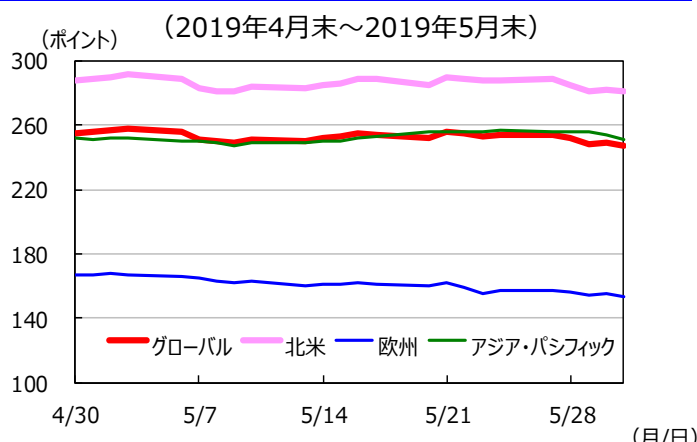
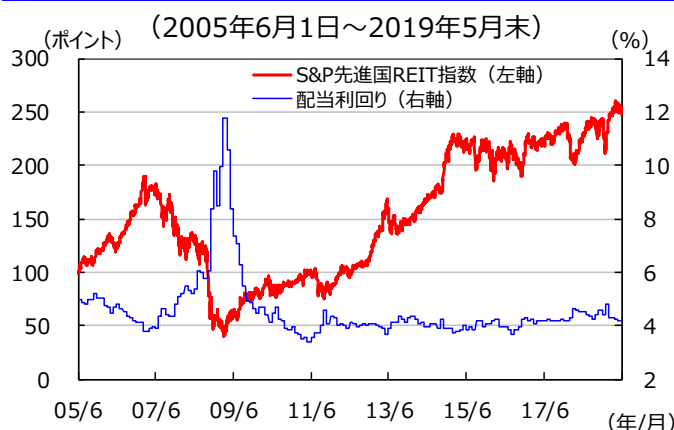
5月のS&P先進国REIT指数（除く日本、配当込み、円ベース）の騰落率は▲3.0%となりました。内訳は、現地通貨ベースのリート要因が▲0.2%、為替要因は▲2.9%となりました。

米国リート市場は、月間で横ばいでした。米国長期金利が低下したことや良好な住宅関連指標が好感された一方、米中の貿易摩擦激化への警戒感が高まったことなどが嫌気されました。欧州リート市場は下落しました。米中貿易摩擦激化への警戒感からリスク回避姿勢が高まったことや、欧州議会選挙やイタリアの財政悪化などへの懸念が広がったことなどが嫌気されました。欧州主要国の長期金利低下はリートの支援材料となりました。一方、オーストラリアリート市場は上昇しました。豪州の総選挙で与党・保守連合が勝利し、住宅ローン融資基準の緩和策が発表されたことや、豪準備銀行の利下げ観測が高まり、長期金利が低下したことなどが好感されました。

為替については、米ドル、豪ドル、ユーロ、英ポンド、シンガポールドル、香港ドルが総じて対円で下落しました。

※月末前日のリート価格を月末の為替レートで換算した当月の指数は▲2.8%の下落となりました。

2. 世界のリート指数の推移



	基準日	1週間前	1か月前	3か月前	6か月前	1年前	3年前
	2019/5/31	2019/5/24	2019/4/30	2019/2/28	2018/11/30	2018/5/31	2016/5/31
グローバル	▲2.5%	▲3.0%	▲0.4%	2.1%	10.5%	15.4%	
北米	▲2.5%	▲2.5%	0.2%	1.4%	14.0%	16.5%	
欧州	▲2.3%	▲7.7%	▲5.3%	▲1.5%	▲11.8%	▲9.3%	
アジア・パシフィック	▲2.8%	▲1.7%	0.9%	9.0%	14.6%	36.1%	

(注1) 世界のリート指数はS&P先進国REIT指数（除く日本、円ベース）を使用。地域別データは、当該指数を構成する地域別指数。

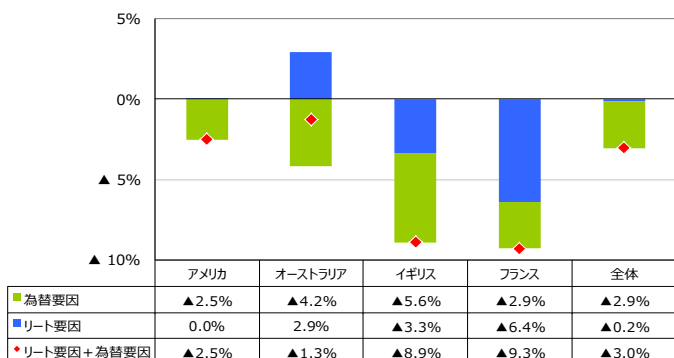
(注2) 上段の2つのグラフは、2005年6月1日を100として指数化。

(注3) 左表は作成基準日をベースに、各期間の指数騰落率を表示。休日の場合は、前営業日のデータを使用。

(出所) FactSetのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

3. 国別収益率

2019年5月の国別収益要因分解

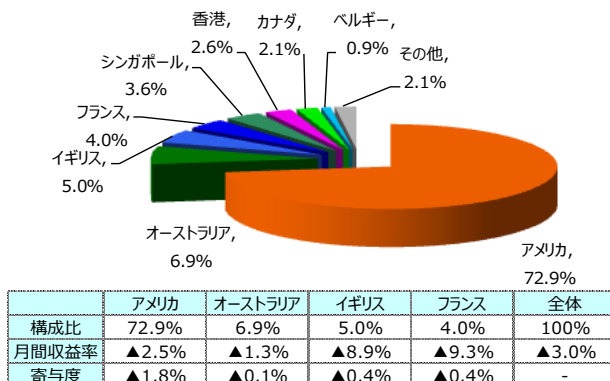


(注) S&P先進国REIT指数（除く日本、円ベース）の国別収益率のデータをリート要因と為替要因に分解。

(出所) FactSetのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

4. 国別比率

国別構成比率（2019年5月末現在）



(注1) S&P先進国REIT指数（除く日本、円ベース）の国別構成比率。

(注2) 寄与度は構成比と収益率の積。簡便的な方法により算出。

(出所) FactSetのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。